

目 次

まえがき	2
I 本書の目的と問題の所在	
1 本書の目的と方法	8
2 問題の所在	10
II 人称をどのように理解するか	
1 近代日本語学における人称の認識	20
2 Jespersen による人称の認識とその展開	31
3 人称の比喩的な拡張と文学研究における人称の扱いかた	40
3. 1 横光利一の「四人称」	40
3. 2 藤井貞和の「四人称」等	42
3. 3 亀井秀雄の「無人称の語り手」	45
4 人称の理解	51
III 日本語の人称制限の現象とその理解の方法	
1 人称制限の現象の指摘	53
2 人称制限を理解する方法	57
2. 1 テクストのタイプを中心とする理解	57
2. 2 視点の概念からの理解	64
2. 3 文の構造、モダリティを中心とする理解	72
2. 4 証拠性、総称性との関連からの理解	78
3 人称制限を理解する方法の整理と本書の方法	80

IV 人称の観点からとらえる文学テクスト

1 人称と日本語の文学テクストのタイプ	84
2 文学テクストにおける人称を理解する方法	98
2. 1 2人称小説を考慮したコミュニケーションのモデル	98
2. 2 文学テクストにおける人称の様相を理解する基準	105
2. 2. 1 対話性と呼びかけ表現における人称の様相	105
2. 2. 2 時間的・空間的な同期性と人称の様相	110
2. 3 人称の様相を理解する基準	116

V 日本語の2人称小説における表現の特性と語りかた

1 問題の所在	117
2 日本語の2人称小説はどのように理解されてきたか	119
3 2人称小説における表現の特性	127
3. 1 テクストの参加者へのはたらきかけ	128
3. 1. 1 呼びかけと問い合わせの表現	128
3. 1. 2 「内なる声」との会話	132
3. 1. 3 まとめ：呼びかけ・問い合わせ・内なる声	134
3. 2 テクストへの言及とテクストの語りかた	135
3. 2. 1 テクストへの言及：メタ・テクスト	135
3. 2. 2 2人称小説における語り手の位置と関係	138
3. 2. 3 2人称小説における「知る」ことへの言及	143
3. 2. 4 2人称と時間的・空間的なダイクシス	149
3. 2. 5 テクストを記号に還元する性質	161
3. 2. 6 2人称者に対する描出表現	167
3. 2. 7 まとめ：テクストへの言及とテクストの語りかた	169

VI 文学テクストにおける人称空間とコミュニケーション	
1 テクストと人称表現	171
1. 1 日本語の文学テクストの地の文に使用される人称表現	171
1. 2 日本語の文学テクストの地の文に 使用される人称表現の階層性	176
1. 2. 1 類型C	176
1. 2. 2 類型Aと類型E	177
1. 2. 3 類型G	180
1. 3 まとめ：人称表現の階層性	185
2 人称とコミュニケーション	186
2. 1 日本語の文学テクストにおける 人称とコミュニケーションの回路	186
2. 2 まとめ：人称とコミュニケーションの回路	202
参考文献	204
索引	218